

# 舞踊運動の体感の日中比較

Bodily sensation in dance: comparison between Japanese and Chinese

米谷淳, 柴眞理子, 坪倉紀代子, 傅正紅

## 1. 研究目的

筆者らは、平成15年度から17年度まで科学研究費補助金を受け、踊り手自身の「体感」からみた舞踊運動の感情価に関する研究を継続している。その一環を成す本研究では、日本人大学生と中国人大学生を対象に舞踊運動の体感実験を実施して、両者の舞踊運動の体感を比較し、その認知構造を比較検討することが目的である。

## 2. 研究方法

### 2. 1 被験者・実験期日・場所

【中国】上海中医薬大学学生15名 (m8名/f7名)

2004年10月・上海中医薬大学体育館

【日本】十文字学園女子大学学生32名

2005年3月・十文字学園女子大学体育館

### 2. 2 実験の手順

異なる感情を内包する8つの舞踊運動<sup>(注)</sup>を実験材料とした。被験者には8つの舞踊運動を1つずつVTRで数回みせた後に、各自での練習を約3分させた。練習中、舞踊運動を確認したい被験者には映像を見せた。全員が踊れるようになったことを確認した後に、もう一度、全員が、その舞踊運動を踊り、その後体感を記入した。体感には柴らの作成した18語から成るチェックリスト<sup>(注)</sup>から5語以内選択し、其々の体感の強さを4段階で評価することを求めた。また、記入後、一人ずつ(日本人は2人ずつ) VTRで撮影をした。

## 3. 結果と考察

日本人、中国人合わせて47人のデータをひとまとめにして18の評定項目について因子分析したところ、固有値1以上の因子が5つ抽出された。因子負荷量(絶対値)の大きな項目は、因子1は喜び、楽しい、嬉しい、冷たい、苦しい、因子2は穏やかな、やさしい、優美な、怒り、怖い、因子3は静かな、寂しい、因子4は厳かな、神聖な、悲しい、因子5はあたたかい、幸せな、のびやかなであった。次に、それぞれの回答者について各因子の因子得点を計算し、日本人と中国人の平均値を舞踊運動ごとに比較した。図1は日本人、中国人それぞれについて舞踊運動ごとに横軸に因子1、縦軸に因子2の因子得点をプロットしたものである。図1からわかるように、因子1と因子2に関して「楽しい」「悲しい」「激しい」「厳かな」をモチーフとした舞踊運動では日中差が大きい。

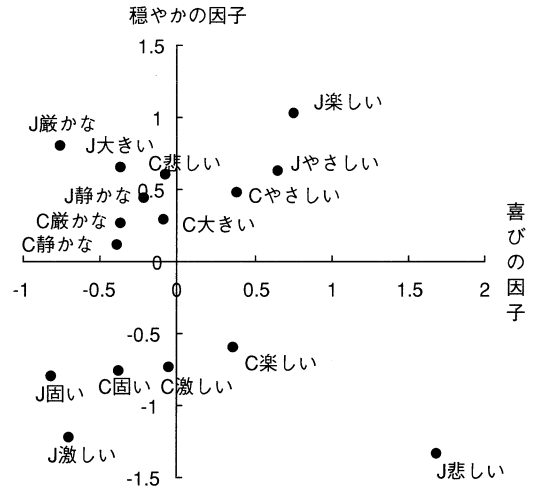
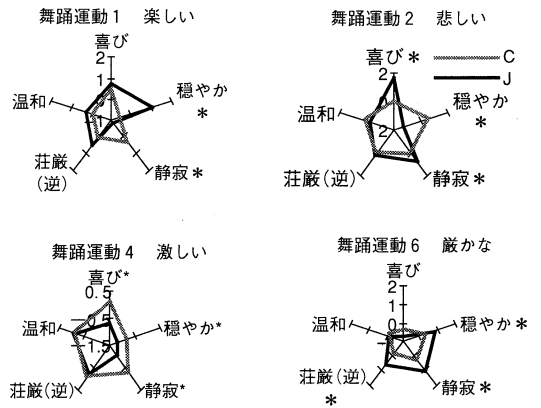


図1 舞踊運動体感の認知構造 (J:日, C:中)

5種類の因子得点について舞踊運動ごとに日中間に有意差があるかを検定により吟味したところ6つの舞踊運動に1因子以上に違いがみられることがわかった。とくに「悲しい」「激しい」「厳かな」をモチーフとした舞踊運動については5因子中3因子に5%水準で有意差がみられた。



(\*がついているものは5%水準で日中差が有意)

さらに、それぞれの評定項目ごとに舞踊運動ごとに日中差を検討したところ、同じ因子に属する項目でも差異の方向が一樣でないことがわかった。

(注)柴・坪倉・猪崎・原田・塚本「体感から捉えた舞踊運動の基本感情とその用語」神戸大学発達科学部研究紀要第12巻第2号pp.113-126